

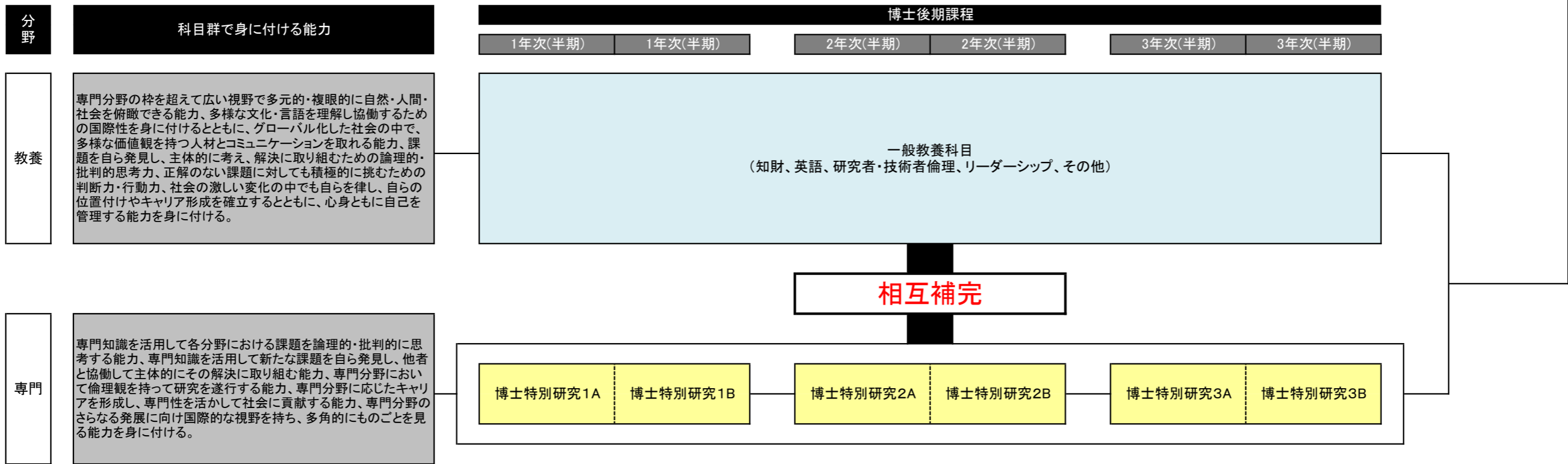
生命科学研究所 生命科学専攻
(博士後期課程)

人材育成に関する目的	独創的研究によって、従来の学術水準に新しい知見を加え、文化の進展に寄与するとともに、専攻分野に関し自立した研究活動を行うことができる高度の能力を有する人材を育成する。
------------	---

2024年4月1日

カリキュラム・ポリシー(抜粋)
<p>博士後期課程においては、修士課程で養った高度な専門的知識や研究開発能力を基礎として、さらに、「研究指導」「一般教養科目」により、従来の学術水準に新しい知見を加え、文化の進展に寄与するとともに、自立した研究活動を行うことのできる創造性豊かな優れた研究開発能力を備え、国内外の研究・教育機関の中核を担うことのできる人材を育成するための教育課程を編成する。</p> <p>(1)研究指導の過程では、指導教員等研究者との議論を深め、極めて高度な専門技術により、自立した研究者として、専門分野に加え他分野の研究者や技術者と連携し、研究開発能力を高めるとともに、他分野の先端知識も取り込み、柔軟な思考と深い洞察に基づいて、独創的に課題に対する解決法を立案できる能力を養う。また、演習における英語での高度な研究発表・討議及び学会等での発表を通して、自身の研究成果を国内外で正確かつ効果的に表現する能力、国際的コミュニケーション能力を養い、国際的な視野を持って科学文化及び科学技術の新たな発展に貢献できる教育を行う。</p> <p>(2)「一般教養科目」では、自立した研究者又は高度職業人として社会に役立つ研究開発を遂行していくために必要な深い学識と汎用的能力を涵養する授業科目を配置する。</p>

ディプロマ・ポリシー(抜粋)
<p>博士後期課程においては、従来の学術水準に新しい知見を加え、文化の進展に寄与するとともに、自立した研究活動を行うことのできる創造性豊かな優れた研究開発能力を備え、国内外の研究・教育機関の中核を担うことのできる人材の養成を目的とし、所定の期間在学し、以下の知識・能力等を身に付け、生命科学専攻で定める所定の単位を修得し、かつ、博士の学位論文の審査、試験、学力確認のための試問に合格した学生に対して修了を認定し、博士(理学)の学位を授与する。</p> <p>(1)生命科学及び他分野における最先端の知識を包括的に理解し、それに基づいて生命科学諸分野の課題を自立的に解決できる極めて高度な専門知識。</p> <p>(2)生命科学における極めて高度な専門技術を有し、自立した研究者として、専門領域のみならず他分野の研究者や技術者とも連携し、生命科学関連諸分野の課題の解決に貢献できる研究能力。</p> <p>(3)生命科学及び他分野における最先端の知識、並びに生命科学における極めて高度な専門技術等により、柔軟な思考と深い洞察に基づいて、独創的に生命科学関連諸分野の課題に対する解決法を自ら立案できる能力。</p> <p>(4)国際的な視野を持って科学文化及び科学技術の新たな発展に貢献するように、英語により研究成果を海外に広く発信できる高度なプレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力。</p>



【履修モデルについて】

博士後期課程においては、カリキュラムポリシーに基づき専門科目をすべて必修としているため、履修モデルの策定は行っていない。

- 必修科目
- 選択必修科目